

2021年 11月20日(土)10:00~/14:30~

11月21日(日)13:00~

入場無料

2021年度 東京賢治シュタイナー学校 8年生劇

「アルプス王と人間嫌い」

あらすじ

舞台は19世紀のオーストリア。

裕福な農場主、ラッペル・コップフ（くるくる頭の意味）は、友人にだまされたことで、人間嫌いになる。自分を愛している者はいない、と思い込み、些細なことにもカッとして周りに当たり散らします。そんな彼を心配する妻にも冷たく当たり、娘の結婚にも猛反対。

日に日に頑なになっていくラッペルコップフの前に、アルプス山脈を統治する精霊の王、アストラガルスが現れます。ラッペルコップフの娘や彼女の恋人の純粹さに心を動かされた彼は、ラッペルコップフの人間嫌いを直すために、彼にある提案を持ちかけました。

さて、その提案とは…。

愉快的炭焼き一家を巻き込みながら、物語は展開していきます。ぜひ、ご覧下さい！

8年生一同

自分自身を認識せよ！？

このお話の作者、フェルディナント・ライムント（1790- 1836）は、オーストリア帝国において活躍した俳優、劇作家です。ウィーン民衆劇史の中で彼の活躍した時期は「ライムント時代」と呼ばれることもあるほど、その時代の人々に好まれた作品を手掛けた人物です。残念ながら、日本では彼の作品に馴染みがなく、過去にこの学校で上演したライムントの3作品同様、この作品も今回が日本初上演です。（ドイツのシュタイナー学校では8年生の劇において好んで上演されるようです）

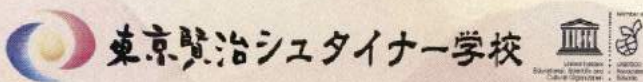
人生において、上手くいかないことの全てを他の人々のせいにして攻撃し続ける男。その姿は滑稽ですが、誰にとっても覚えのある、思わず自分自身を振り返ってしまう姿です。負のループに入り込んでしまった男を助けることができたのは、本人自身！？

「自分自身を認識せよ！」プレ思春期、自分の感情に振り回されがちな時期に、このテーマに出会うことは、彼らの人生にとって大きな意味があると考えています。と、同時に、過去に思春期を終えた私たちにとっても、人生を振り返る意味ある観点となるでしょう。

壮大なテーマに取り組む16人の8年生の姿を皆さんと共有できたら嬉しいです。

会場でお待ちしています！

8年担任 藤村久美子



お問い合わせ・申込み:東京賢治シュタイナー学校
<https://www.tokyokenji-steiner.jp>
info@tokyokenji-steiner.jp
Tell:042-523-7112/ Fax:042-523-7113
東京都立川市柴崎町6-20-37

受付:30分前より
対象年齢:小学5年生以上
会場:東京賢治シュタイナー学校ホール
※要予約
席数が限られております。
お早目にお問い合わせ下さい。



申込みQRコード